

森六ホールディングス(HD)は、4月1日付で森六ケミカルズと森六テクノロジの事業を継承し、商号を森六に変更する。同日に森六の専務執行役員・ケミカル事業本部長に就任し、同事業を統括する立場となる文字英人森六ケミカルズ社長は新たな経営体制への移行について、「組織の一体化によって、生産事業本部(現在の森六テクノロジ)とのシナジーを発揮しやすくなると考えている。ケミカル事業本部は引き続きものづくり事業の強化とグローバル拡大に注力していく」と抱負を語っている。

森六HD事業統合で4月から新体制

森六ケミカルズ 文字 英人 社長

今回の事業統合は、森六グループの事業部門、事業会社間のシナジー創出による顧客提供価値の最大化と、迅速な意思決定による新領域での事業拡大を図る強固な経営基盤の構築を狙



話す。具体的な内容についてはこれから詳細を語めるが、文字社長は「基本的にはこれまでの戦略を踏襲し、ものづくり事業の強化とグローバル拡大を進めていく」と

いとしている。ケミカル事業本部の戦略については、2025年度から開始する新中期経営計画をベースに展開していく。

生産部門とシナジー創出

グローバル拡大へ新戦略

ものづくり事業の強化では、グループ企業である四国化工の海外展開などを検討、グローバル拡大では、長期化が見込まれる中国市場の低迷を考慮した、その他の地域での展開強化を計画している。インドや欧米など世界各国で収益を上げる体制作りを行い、活路を見い出す。自動車以外の市場の開拓にも努めたい」としており、アフリカでの事業展開に向けたスタディー

など新たな取り組みを視野に入れていく。これらの活動へのサポートを目的として、4月に事業戦略室と開発推進室を新設する。事業戦略室ではこれまでの勘に頼った仕事から脱却し、エビデンスとデータに基づいた戦略を組み立てていく。また開発推進室では、グローバル戦略の構築と製品開発を進めていきたい」と意欲をみせる。文字社長は今後、ケミカル事業本部で新しいものを作ることを主眼とする「破

壊と創造」をスローガンに経営を進めていく考えだ。「当社には360年を超える歴史があるが、これまで培われた文化には良い面とともに悪い面もあるので、それを解消し新しい文化を作る必要がある。社内の空気を変えるため、向上心を持って仕事に取り組み人材を重用し、その成長に必要な資格取得などを後押しする」と語る。さらに「収益の低い小さなビジネスで満足することなく、高収益で大規模なビジネスにチャレンジする社員を支援していく」とも話しており、社員の奮起に期待している。(聞き手＝東坂慎一)